

# 視察報告書

島根県浜田市・山口県山口市

令和元年7月29日(月)~30日(木)



(於：浜田市議会議場)

# 松阪市議会 市民クラブ

松阪市議会議長 大平 勇 様

令和元年8月13日

松阪市議会

市民クラブ 中島清晴

令和元年7月29日(月)から7月30日(火)の間、行政視察を実施致しましたので、下記のとおり報告致します。

## 記

### 1.参加者

中島清晴 橘大介 楠谷さゆり

### 2.視察先及び視察事項

(1)島根県浜田市

## 議会改革について

### (2)山口県山口市

市域住民主体で運行しているコミュニティタクシーについて

### 3.視察内容 別紙のとおり

#### I. 島根県浜田市 議会改革について

日時： 7月29日(月) 15:00～17:00

場所： 浜田市役所

対応： 浜田市議会議長 川神裕司様

浜田市議会副議長 田畑敬二様

浜田市議会議員 西川真午様

浜田市議会議員 西田清久様

浜田市議会議員 牛尾昭様

浜田市議会議員 渋谷幹雄様

浜田市議会議員 柳楽まちこ様

浜田市議会議員 村武まゆみ様

浜田市議会議員 布施賢司様

浜田市議会議員 岡本正友様

## 1. 浜田市の概要と、松阪市の友好関係

面積 690.66 平方キロメートル（松阪市 624 平方キロメートル）

人口 5 万 4592 人（松阪市 16 万 3863 人）

浜田市は、島根県西部の中央に位置する。平成 17 年 10 月 1 日に旧浜田市と旧那賀郡 3 町 1 村が合併し、新浜田市が誕生、県下市町村では 3 番目の人口を有する市となった。

特産品としてノドグロやカレイの一夜干しがあり、魚介類が豊富なまちとして知られる。

松阪との縁として、江戸時代始めの 1619 年、浜田藩初代藩主古田重治が、伊勢国松坂藩より転封となり、大勢の家臣や町民を連れて浜田に移り、浜田の城やまちを作った歴史がある。さらに、浜田藩第 12 代藩主松平康定は、伊勢神宮参拝の途中、松坂の国学者本居宣長に源氏物語の講釈を受けそのお礼に駅鈴を贈ったという。現在、その駅鈴は松阪市のシンボルとして JR 松阪駅前のモニュメントやマンホールのデザインに採用されている。そのような関係を元にして市民団体による相互訪問を中心とした交流が始まり、平成 28 年 4 月 2 日、浜田市と松阪市は、「驛鈴で結ぶ浜田市・松阪市 観光・文化交流協定」を締結し、現在も交流人口の増加を図るとともに、観光・文化振興と地域経済の発展に向け交流を深めている。（参考：浜田市 HP）

## 2. 議会改革の背景

平成 17 年 10 月 1 日に 1 市 3 町 1 村が合併して新浜田市となったことをきっかけとして、議長の諮問機関として議会改革検討委員会（各会派から 12 名）を設置し、①議会の監視機能の強化に関すること、②議会運営のあり方に関すること、③広報広聴活動の充実に関すること、④議員及び事務局職員の調査、政策立案能力向上に関すること、⑤議会費予算の活性化に関すること、⑥その他議会の活性化に関すること、について検討を始めた。

## 3. 主な議会の活性化・議会改革の取り組み

平成 18 年 10 月、ホームページにおける広報機能として、「議長なんでもメール」を開設し、気軽に意見等を議長あてメールにて送信できるよう改善。18 年 12 月には、傍聴者などによりわかりやすく、また質疑と答弁の正確度を高めるためにも、一般質問については一問一答方式を導入した。19 年 3 月、議員定数等調査特別委員会を設置。合併当時は 36 人であった議員定数が、現在は 24 人である。19 年 6 月には、正副議長選挙において、所信表明会を実施することとした。その後も、20 年 2 月には会派代表質問の導入、同年 6 月には浜田市議会政治倫理条例を制定、23 年には議会基本条例の制定、28 年、一般質問や全員協議会の動画配信を開始するなど、着々と議会の活性化とオープン化に取り組んできた。

さらに、30 年 8 月にはタブレット端末を議員全員に配布し、ペーパーレス会議システムを導入、

本年31年4月より通年議会制の導入など、議会改革にピリオドを打つことなく熱意を注いでいる。

なお、20年11月には、マニフェスト実行委員会主催の「マニフェスト大賞の審査委員会特別賞」(議会部門)を受賞した。

#### 4. 質疑応答

Q:「議長なんでもメール」はうまく機能しているか。また、議会改革につながったものはあるか。

A:匿名メールや個人的な批判には返信をしない。市政に対する意見は、執行部とも相談をしながら、議会として返事をしている。一部予算審査の時に、調査として活かしたものはある。今後も継続し、有効活用できるものになればいいと思う。

Q:通年議会を導入してのメリットは。

A:一般的には通年議会にするメリットの一つとして専決処分がなくなることが挙げられるが、実際には妥協で一部認めている。

Q:常任委員会、特別委員会、全員協議会の会議録について、会議終了後速やかに作成し、インターネットで公開することとした(26年6月)とあるが、どのくらいで公開できるのか。

A:2週間以内で公開するが、要約筆記である。

Q:30年9月の浜田市議会基本条例一部改正にて、「障がいの有無にかかわらず市民が傍聴しやすい環境の整備、インターネット等による配信に努めるものとする」とあるが、実際には何か新たに整備したのか。

A:議会だよりには音訳があり、手話通訳は前もって要請があれば可能である。また、階段の昇降などに支障のある者にはロビーにモニターが設置されている。しかし、この件については基本条例に条項として加筆したものではあるが、その後の新たなる整備にはまだ至っていない。

#### 5. 所感

連の議会改革に熱意が溢れているが、特に議会基本条例の一部改正に積極的だと感じられた。必要に迫られてからではなく、松阪市議会においても、浜田市議会の「障がいのある議員及び妊娠中または出産後の議員に対し、本人の意思を尊重し、円滑な議会活動のための配慮をしなければならない」(30年9月改正)等の項目については大いに参考にして、改正を議論することは必要ではないかと考えられる。

## II. 山口県山口市

### 地域住民主体で運行しているコミュニティタクシーについて

日時： 7月30日（火）10:30~12:00

場所： 山口市役所

対応： 山口市議会 議長 坂井 芳浩 様

都市政策部 交通政策課 交通政策担当 主幹 田邊 幸治 様

#### 1. 山口市の概要

面積 1,023 平方キロメートル（陸地面積 45 平方キロメートル）

人口 19万7,422人（2009年/3月末）

山口市は、豊富な緑や清澄な水を有する自然に満ちた都市である。また、大内氏時代や明治維新関連の歴史や文化資源が残されており、湯田温泉などを含めて、観光地としての魅力も備えた都市となっている。

地理的には、県のほぼ中央に位置し、南は瀬戸内海に面し、東は防府市、周南市、西は美祢市、宇部市、北は萩市、さらに島根県津和野町、吉賀町に接している。市街の中心部の緯度・経度は、東経 131 度 28 分、北緯 34 度 10 分である。

北部の山地から、山口地域は榎野川が、徳地地域は佐波川が、盆地、南部の臨海平野を経て瀬戸内海に流れ込んでおり、阿東地域は阿武川が「名勝長門峡」を経て、萩市より日本海へと流れている。

また、広域交通網が東西南北に走り、県内の主要な都市に 1 時間以内で移動できるとともに、高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港といった高速交通網との接続の便もよく、広域交流の拠点としての優位性を有している。

## 2. 交通政策の基本理念

市民誰もがいきいきと安心して住み続けられるよう、市民、事業者、行政が協働して、持続的な公共交通を創り守ることにより、車に頼りすぎない交通まちづくりを目指す。

## 3. 基本目標

市民生活と都市生活を支える公共交通の確立

- 1 地域内での移動は、市民の日常生活を支える持続可能な地域交通を整える。
- 2 街中の移動は、求心力を高め、街の活力を創出する都市政策を整える。
- 3 広域的な移動は、交流を広げ、都市の発展を支える広域交通を整える。

## 4. 取組姿勢

みんなが主役となって、それぞれの役割を果たし、協働して安定的で持続可能な交通システムを整える。

市民の手段は、「行政が確保する」といったこれまでの考え方を見直し、市民の移動手段は「みんなで創り育てる」といった姿勢のもとで取り組んでいく。

## 5. 公共交通体系の整備方針

基幹交通とそれに接続するコミュニティ交通を整えるとともに、相互の連携を強化することにより、市民の連続的な移動を確保する。

## 6. コミュニティタクシーの導入

平成19年に運行を開始した小郡地域「サルビア号」を皮切りに順次運行が開始され、現在は7地域で運行されている。

成功の要因は、市民に全てを任せるというのではなく、常に一緒に考えるという姿勢を市が示したことだと考えられる。例えば、住民の集まりには必ず市の担当者も同席し、積極的に情報開

示をして協働事業であることをアピールした。また、「説明会」ではなく「意見交換会」「勉強会」を実施し、ひとつの地域で何度も繰り返し検討した。節目には第三者的立場の学識経験者が同席し、広い視野でアドバイスした。地域の自主性を尊重し、動きやすいように市がバックアップする立場に回ったことが上げられる。

コミュニティ交通の運行を行うことは、地域の地形や人口構成など様々な条件が異なるため、市内一律の考え方では実現できない。運行までには、路線、バス停の位置、ダイヤの決定、費用負担まで含んだ地域形成が必要となるものである。

## 7. 課題と取組み

高齢者の比率は増えつつも、全体の人口が減少し、利用者が減少する可能性が大きい。年代が下がるにつれ女性の免許保持率が高くなり、高齢になってもマイカーを手放さないため、コミュニティタクシーの利用が期待できない。

自治会役員が多く、1～2年で替わるため、後継者が育っていない。運転手不足からタクシー事業者が撤退。

## 8. 質疑応答

Q：バス停が遠いとの意見がある。対応方法は。

A：地域運営バスでは限界がある。民間バス会社と共存していく。

Q：赤字バスの実態をインターネットで公表している。目的は。

A：赤字バスの情報公開し、市民に状況を理解をいただくのが目的。

Q：協賛金の取組は。

A：山間部は集めにくい。一人1000円の寄付をいただく地域もある。

Q：コミュニティバスとコミュニティタクシーの住み分けは可能か。

A：各地域の事情によって切り分けは非常に難しい。地域の住民と徹底的に話し合う。



Q:タクシーと乗合タクシーの会社は別会社か。

A:別の会社。専用車両を個別に所有。

## 9. 所感

山口市は、面積 1,023 平方キロメートル。平成 17 年には、1 市 4 町合併。(山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町) 平成 22 年阿東町を編入。松阪市の、623.6 平方キロメートルと比較すると、広大な面積の市と言える。

今後の少子高齢化により、公共交通の拡充は喫緊の課題である。市民の移動手段は行政が確保するのではなく、これまでの考え方を見直し、「みんなで創り育てる」といった姿勢のもとで取り組んでいく。

その中で誕生したのがコミュニティタクシーである。地域の地形や人口構成など様々な条件が異なるため、市内一律の考えでは実現が難しい。地域の移動手段は、地域事情を一番詳しい地域が主体となり、交通事業者や行政とともに、みんなが協働して創り育てるタクシーが誕生した。

我が松阪市も、地域の様々な条件が異なるため、市内一律の路線は実現が難しい。今後、松阪市にみんなが協働して創り育てる公共交通を考えていきたい。



山口市役所にて